

令和5年度 学校評価報告

草加市立青柳小学校
(令和6年1月23日作成)

1 学校教育目標 あ…明るく元気な子 お…思いやりのある子 や…やりとげる子 ぎ…きたえる子	
2 重点目標・努力目標 ・命を大切にしたい、安心・安全な教育活動の実施 ・自己肯定感・自己有用感の育成 ・不登校・いじめの未然防止 ・ICT機器の活用とネットモラル教育の充実 ・組織的に行う生徒指導の充実 ・読書活動の推進	3 前年度の成果と課題 ○成果：保護者アンケートでは、教科担任制の実施について肯定的回答の割合が増加した。また、中学校区の連携が進み、目指す子ども像の実現に近づいた。 ●課題：読書に親しむ機会を一層充実させ、多くの児童に読書機会を与えていく必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員の意向を踏まえた分掌組織により、校務の分散化を図ることができた。 ○学校経営方針に基づいた教育活動を推進することができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研究会への参加 ・人材育成	A	○川柳中学校区の核となって、市の委嘱研究を牽引することができた。 ○研究発表会を通して、市内外の教育関係者に成果を公開することができた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健・安全計画をもとに、課題に対して適切に対応することができた。大きな事故、怪我は発生していない。 ○前年度に比べて、校内むし歯治療率が向上した。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校内の実態に応じた倫理確立委員会の開催と日頃の情報共有により、教育公務員としての自覚と誇りを共有し、事故0を継続することができた。また、計画的な安全点検と迅速な対応で施設事故を防いだ。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○各種たよりで情報を発信するとともに、HPを更新して学校の様子を家庭・地域に発信してきた。 ●発信内容が相手にどの程度伝わっているかを把握し、改善していく必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○中学校区委嘱研究を契機に、関係各園、学校と連携を深めることができた。 ○中学校教員による乗り入れ授業（算数）を通して、教科の系統性を意識した指導を行うことができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価をもとに教育課程を編成し、教育活動の充実を図ることができた。 ●学校の実態に応じて、授業時数配当について工夫と改善を図る必要がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学力調査において正答率が向上してきた。 ●引き続き、基礎・基本の確実な定着に向けて授業の質を高めていく必要がある。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳科の指導法について研修を行い、授業改善につなげることができた。 ●研修会で学んだ事項を全学級で実践し、指導力を高めていく必要がある。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任・専科教員・ALT間の連携を図り、計画的に授業を行うことができた。 ●指導方法等について専科以外の教員間でも研修を深めていく必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童による行事が順次再開され、交流が盛んになってきた。 ●引き続き、学級経営の充実を図っていく必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人材バンクの見直し等、地域人材を活用した学習を計画することができた。 ●引き続き、学校の特色や地域人材を生かした学習の充実を図る必要がある。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で共有し、教員間の連携を図りながら組織として対応することができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートを各学年の計画に位置付け計画的に指導することができた。 ●中学校及び家庭・地域との連携を充実させていく必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画をもとに個に応じた指導を行うことができた。 ●関係機関との連携をさらに充実させていく必要がある。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書による館内整備が進み、読書環境が整ってきた。 ●各学級における図書館利用を推進していく必要がある。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した授業が日常的に行えるようになってきた。 ●教員間のリテラシー格差を解消するための研修が必要である。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づき、人権感覚を育成する授業を実施することができた。 ●授業に限らず学校生活全体を通して人権感覚を育成していく必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の連携 ・中学校区合同研修会 ・幼保との交流 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○市の委嘱研究では中学校区の中心となって研修をリードすることができた。 ○研究を推進する中で、幼保との連携も充実させることができた。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書機会の提供 ・児童への貸出し冊数 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ボランティアによる読み聞かせ、教員による本紹介、親子読書・朝読書の推進等、本に親しむ機会を数多く提供できた。 ●学校司書の協力を得ながら蔵書点検を継続し、読書環境を整える。
	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・相談機会の充実 ・保護者面談の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内会議に関係機関の担当者に入っただき、連携を深めた。 ○各種面談・相談の場を活用し、児童・保護者に寄り添った支援をすることができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○学校関係者からは、学校評価に関わる全ての項目において肯定的な評価をいただくことができた。特に、保護者、来校者等に対して教職員が丁寧で誠実な対応をできていることについて称賛をいただいた。

○日常的な授業改善や各種学力調査等の結果活用をしてきたことにより、児童の学力が向上してきた。

○「自己肯定感・自己有用感の育成」に関わる市委嘱研究への取組を通して、教員の授業力向上、児童の自己肯定感の育成、中学校区内の児童理解の推進が図られた。

6 次年度の改善策

●児童のタブレット活用や教員のICT機器を活用した授業について、引き続き研修を深めていく。

●学級ごとの図書室利用や児童による読書機会の差を解消するため、個々の関心に応じて読書に興味を持てるような環境整備と働きかけをしていく。

●生徒指導、道徳教育、特別活動、人権教育等、教育活動のあらゆる機会を捉えて、いじめ、不登校の未然防止に向けた働きかけを行っていく。